

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

vol. 121  
2026.5TOPICS  
1

## 医療圏を越えた医薬品の共同調達等に関する合意書の締結 ～大学病院主導による医薬品の安定確保体制の構築～



5月21日、国立大学法人岡山大学、国立大学法人島根大学、日本赤十字社岡山赤十字病院および地方独立行政法人岡山市立総合医療センターは、岡山大学病院、島根大学医学部附属病院、岡山赤十字病院および岡山市立総合医療センターが合同で設置した「岡山・島根地域フォーミュラー推進協議会」における質の高い、経済的な医薬品の安定供給を重点的に確保するため、岡山大学を契約担当法人とする共同調達に関する協定の合意書を締結しました。

また、岡山大学病院および岡山市立市民病院は、「医薬品共同配送事業」により、「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」を踏まえた共同配送を行います。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1550.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1550.html)

TOPICS  
2

## 高原滋夫先生胸像除幕式を開催

本学医学部に多大なるご貢献をされた名誉教授 高原滋夫先生の卓越した業績と人徳を末永く称えるべく、このたび鹿田キャンパスに「高原滋夫先生顕彰胸像」を建立し、5月7日に胸像除幕式を執り行いました。高原先生は、耳鼻咽喉科学が専門で医学部長などを歴任しており、国内初の難聴学級を開設などで文化功労賞にも選ばれています。

当日は、高原先生のご親族や門下生、学内外の関係者ら約70人が出席し、厳かな雰囲気のもと式典が行われました。

設置された胸像は、今後も次世代の医療を担う学生たちの成長を見守り続けます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15347.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15347.html)



Pick up!

## 岡山大学ユネスコチェア・ユースアンバサダーに 本学卒業生の松本颯太さんを任命



本学は4月1日付で、本学卒業生であり、現在、独立行政法人国際協力機構（JICA）ウクライナ事務所に勤務する松本颯太さんを、岡山大学ユネスコチェア・ユースアンバサダーに任命しました。松本さんは、本学における3人目のユネスコチェア・ユースアンバサダーであり、日本人としては2人目の任命となります。

松本さんは在学中から国際協力やSDGs推進活動に積極的に取り組み、2019年には本学代表として、英国・ロンドンで開催された世界最大級の次世代リーダーグローバルサミット「One Young World」に派遣されるなど、グローバルな課題解決に向けた活動で活躍してきました。現在はJICAウクライナ事務所において、現地支援や国際協力業務に従事しています。

那須学長への表敬訪問で松本さんは、今後ユースアンバサダーとして本学学生向けに講演会やセミナーを開催し、国際協力や平和構築、グローバルキャリア形成などについて学ぶ機会を提供していきたいなど抱負を述べました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15344.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15344.html)



TOPICS

3

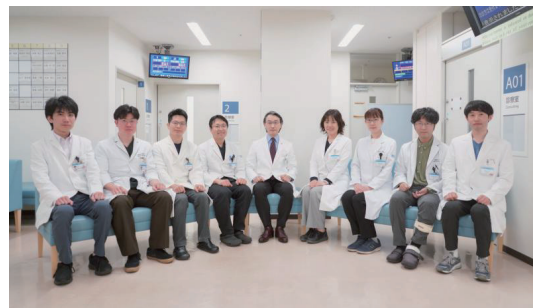
## 大塚文男教授(医)がAMED「令和7年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に採択

岡山大学学術研究院医歯薬学域(医)総合内科学・大塚文男教授が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「令和7年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に係る追加公募(3次公募)に採択されました。

今回採択された研究課題は「炎症・ストレスマーカーに着目した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)罹患後症状の病態とバイオマーカー特定のための縦断的観察研究 — 特に症状の長期化に着目して—」という内容です。

大塚教授は「Long COVIDは多様な症状と長期化によって患者さんの生活に深刻な影響を及ぼしています。臨床データと研究分担者らの基礎研究の知見を融合し、その病態を客観的に捉えることができれば、診断や治療の精度向上につながります。本研究により、患者支援と医療の質の向上に貢献していきたい」と話しています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15371.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15371.html)



TOPICS

4

## 本学職員を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！ ～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～



本学は、岡山大学総合技術部中村有里技術専門職員を、新たに岡山大学研究開発マネジメント人材として認定しました。

本認定は、「岡山大学研究開発マネジメント人材認定に関する規程」に基づき、研究開発マネジメント業務を主体的かつ積極的に担うことのできる人材の養成と、教職員の高度化を目的として実施しました。認定にあたっては、一般社団法人リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構による「認定URA」の取得、または各種資格等に基づくポイント制度を用いて所定の基準を満たす者を審査のうえ認定しており、認定者は、研究内容に関する深い理解と洞察を有し、大学等の組織運営に関わる研究開発マネジメント全般に携わる研究開発マネジメント人材としての活躍が期待されます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id15351.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15351.html)

PRESS  
RELEASE

## くり返す膀胱炎に、塗る乳酸菌治療 ～抗菌薬・ホルモン薬に依存しない新たな予防治療法の確立へ～

岡山大学学術研究院医療開発領域(岡山大学病院 腎泌尿器科)の定平卓也研究准教授、同領域(岡山大学病院 臓器移植医療センター)の坪井一朗助教(特任)、光井洋介客員研究院(おかやま腎泌尿器科クリニック)、同領域(岡山大学病院 新医療研究開発センター)の渡部昌実教授ならびに学術研究院先鋭研究領域(未来医療)・腎泌尿器科学の荒木元朗教授は、閉経後女性の反復性膀胱炎研究を行い、尿と膣に同じ大腸菌が存在することを明らかにし、膣の環境が膀胱炎再発に深く関わっていることを突き止めました。さらに、1年間の乳酸菌膣坐剤投与が86%の膀胱炎再発を防いだことを報告してきました。

今回、これまで1年間の継続使用で効果が確認された乳酸菌膣坐剤を、外来で医師が直接実施する乳酸菌膣塗布剤に変更し、より少ない回数(8回)・より短い期間(半年)でも同様の効果が得られるかを検証する研究を2026年より開始しました。本研究により、抗菌薬やホルモン薬に頼らない新しい再発予防法として、患者さんの負担を減らしながらも効果の高い、将来的に広く医療現場で活用できる治療方法確立を目指します。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1547.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1547.html)

